



JASDAQ

平成 21 年 5 月 11 日

各 位

会社名 株式会社 S B R
代表者名 代表取締役社長 齋藤真織
(JASDAQ・コード2759)
問合せ先 常務取締役 高梨宏史
電 話 03-5733-4492

平成21年3月期連結業績予想との差異、特別損失の計上、
ならびに配当予想との差異に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成20年11月14日に公表した平成21年3月期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）の連結業績予想ならびに平成20年5月15日に公表した配当予想について、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

また、特別損失の計上についても併せてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成21年3月期 連結業績予想の修正（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成20年11月14日発表)	百万円 21,716	百万円 699	百万円 700	百万円 220	円 銭 427.18
今回修正予想 (B)	18,410	△4,545	△4,349	△11,874	△23,039.50
増減額 (B-A)	△3,305	△5,245	△5,049	△12,095	△23,466.68
増減率 (%)	△15.2	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	18,373	△395	△486	△3,553	△6,858.97

(2) 修正の理由

当社グループは、平成21年3月期の経営方針に「選択と集中」を掲げ、中長期的な安定成長に向けて、強固な収益基盤を確立すべく、重点施策として「経営支援サービス本流化のための土台作り」「マネジメント強化」及び「人材、制度、インフラ整備」に取り組んでまいりました。

しかしながら、折からの経済環境の悪化に伴い、これまでマクロ経済の影響を受けることが極めて稀であった当社顧客層である小企業にも波及する事態となり、第3四半期を境に当社業績にも影響が出た次第です。

売上高につきましては、当社の主力商品であるITパッケージにおいて、昨秋以降の急激な景況感の悪化の影響により受注数が一時停滞したことに加え、リース契約の承認率が低下したことで、第3四半期は大きく計画を下回る結果となりました。第4四半期におきましては、受注数が改善したことに加え、リース契約の承認率も回復基調ではありましたが、第3四半期の計画の遅れを取り戻すまでには至りませんでした。

経営支援サービスにおいても、景況感の悪化により更に選択と集中を推し進めたことに加え、本件と同日付けで開示しております「業績に影響を与える事象の発生と社内調査報告及び外部調査委員会の設置について」にて記載の通り、当社従業員による不正行為が発覚し、金融支援サービスの一環と

して行っていた売上債権の早期資金化サービスにおける手数料売上の戻し入れが発生した結果、売上高が減少することとなりました。これらの結果、売上高は前回予想を下回る見通しであります。

利益につきましては、前述の売上債権の早期資金化サービスにおける営業立替金及び売掛金の回収不能リスクに備え貸倒引当金を計上した結果、営業利益は前回予想を下回る見通しです。

また下記「2. 特別損失の計上」に記載のとおり、合同会社 Expanding Investment Co. への貸付に対する引当金計上、グループ再編に向けた子会社ならびに一部事業の見直しに伴う売却損、グループ子会社ののれん代の減損及び保有する投資有価証券の評価損、IT パッケージの商材開発の為のソフトウェア資産の除却、コスト構造の抜本的改善を目的とした本社オフィスならびに支店の移転に伴う固定資産の除却及び引当金の繰入が発生した結果、多額の特別損失を計上する見込みとなりました。

これらの要因により、売上高 18,410 百万円、営業利益△4,545 百万円、経常利益△4,349 百万円、当期純利益△11,874 百万円に連結業績予想を修正致します。

2. 特別損失の計上

平成 21 年 3 月期は、収益性を基準とした取組み優先順位の厳格化を行い、グループ再編ならびに資産の見直しを積極的に行ってまいりました。このような施策の中、平成 21 年 3 月 12 日付「当社連結子会社と SPC のローンコミットメント契約解消に関するお知らせ」で公表しましたとおり、SPC のローンコミットメント契約を解消したことにより、当社から合同会社 Expanding Investment Co. に貸付を行うこととなり、昨今の経済状況を鑑み将来のデフォルトリスク等に備え引当金の繰入を実施しております。また、折からの経済危機の影響を受けて、株式市場の暴落および M&A 市場の縮小が急激に進み、子会社及び一部事業の見直しを進める中で減損および売却損が発生したことに加え、保有する投資有価証券の評価損も発生致しました。また、IT パッケージの商材開発の為のソフトウェア資産の除却、コスト構造の抜本的改善を目的とした本社オフィスならびに支店の移転に伴う固定資産の除却および引当金の繰入を実施しております。以上の内容を主要因として、下記のとおり特別損失 6,994 百万円を計上する見通しとなりました。

- ① 貸倒引当金繰入：2,908 百万円
合同会社 Expanding Investment Co. への貸付金に対する引当金の繰入
- ② 固定資産減損損失：1,595 百万円
グループ子会社ののれん代の減損
- ③ 固定資産除却損：599 百万円
IT パッケージの商材研究・開発のため購入したソフトウェア、本社オフィス及び支店の移転等による固定資産の除却
- ④ 移転損失引当金繰入：505 百万円
コスト構造の抜本的改善を目的とした本社オフィス及び支店の移転に伴うコストの引当金
- ⑤ 投資有価証券評価損：447 百万円
市場時価下落による保有する投資有価証券の評価損
- ⑥ 関係会社株式売却損：241 百万円
グループ子会社の株式譲渡に伴う売却損

3. 期末配当予想の修正

(1) 修正の内容

基準日	1 株当たり配当金		
	第 2 四半期末	期 末	年 間
前回公表予想	—	250 円	250 円
今回修正予想	—	0 円	0 円
当期実績	—	—	—
前期実績 (平成 20 年 3 月期)	—	250 円	250 円

(2) 修正の理由

当社の利益配分における考えは、財務体質強化のための内部留保に重点を置くと共に、安定的な配当を行うことを基本方針とし、その方針に従い平成 20 年 5 月 15 日に公表した配当予想は 1 株当たり年 250 円としておりました。しかしながら、上記に記載のとおり、今期業績は前回予想を大幅に下回る見通しであることから、業績動向、財務状態、経営環境及び配当性向等を総合的に勘案した結果、株主・投資家の皆様のご期待に背く結果となり誠に遺憾ではございますが、配当を見送らざるを得なくなり、従来予想の年 250 円から無配に配当予想を修正しております。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、今後様々な要因により実際の業績が記載の予想数値と異なる可能性があります。

以 上